

2024年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年5月14日

上場会社名 株式会社フォーサイド 上場取引所 東
コード番号 2330 URL https://www.forside.co.jp/
代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 大島 正人
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 飯田 潔 TEL 03 (6262) 1056
四半期報告書提出予定日 2024年5月14日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年12月期第1四半期の連結業績（2024年1月1日～2024年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期第1四半期	989	△6.1	△28	—	△24	—	△38	—
2023年12月期第1四半期	1,053	7.6	△7	—	△11	—	5	—

(注) 包括利益 2024年12月期第1四半期 △35百万円 (—%) 2023年12月期第1四半期 5百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期第1四半期	△1.02	—
2023年12月期第1四半期	0.18	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年12月期第1四半期	4,496	1,539	34.2	40.87
2023年12月期	4,448	1,575	35.4	41.82

(参考) 自己資本 2024年12月期第1四半期 1,539百万円 2023年12月期 1,575百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年12月期	—				
2024年12月期（予想）		—	—	—	—

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
2. 2024年12月期の配当予想は今後の業績見通し等を踏まえて判断することになっているため未定であります。

3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,088	5.6	103	96.4	128	190.8	100	△11.6	2.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有

新規1社 （社名）株式会社 AI Tech Solutions

除外1社 （社名）フォーサイドメディア株式会社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年12月期 1 Q	37,687,704株	2023年12月期	37,687,704株
② 期末自己株式数	2024年12月期 1 Q	21,834株	2023年12月期	20,494株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年12月期 1 Q	37,666,629株	2023年12月期 1 Q	32,538,327株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び本資料の発表日現在において合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束するものではありません。実際の業績等は今後の様々な要因によって予想と大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予測などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(収益認識関係)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、コロナ禍からの経済活動の正常化が進み、雇用・所得環境の改善や訪日外国人の増加等により、国内景気は緩やかな回復基調となりました。一方で、ウクライナ情勢の長期化による資源価格の高騰、円安の進行、中東の地政学リスク、中国経済の低迷等、経済活動に急激な影響を与える要因が払拭されておらず、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの事業領域であるプライズ事業を含むアミューズメント市場におきましては、経済活動の正常化が進み、プライズゲームを中心に集客は復調傾向にありますが、原材料費や光熱費の高騰、人件費が上昇傾向にあること等、今後の市場の状況への影響が懸念されています。

住宅市場におきましては、2024年3月の新設住宅着工戸数が前年同月比12.8%の減少となり、前年同月比で10ヶ月連続の減少となりました。また、新設住宅着工床面積においても、前年同月比で14ヶ月連続の減少となっており、引き続き注視が必要です。

このような経済状況の中、当社グループにおいては、主力事業であるプライズ事業・不動産関連事業を中心に事業収益の拡大を図ってまいりました。また、当第1四半期連結会計期間において、AI領域における新たな事業を開始するなど、新たな市場に対して挑戦し、当社グループの収益性・付加価値の向上に努めてまいりましたが、前年同期の売上増加の反動減を補うまでには至らず、減収減益となりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の営業収益は989,627千円（前年同期比6.1%減）、営業損失は28,540千円（前年同期は営業損失7,690千円）、経常損失は24,766千円（前年同期は経常損失11,261千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は38,376千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益5,825千円）となりました。

セグメント別の経営成績は次の通りであります。

① プライズ事業

プライズ事業につきましては、株式会社ブレイクがクレーンゲーム機等のプライズゲーム用景品の企画・製作・販売を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、キャラクターグッズや雑貨系商材を中心に受注件数が堅調に推移いたしました。一方で、前年同期はコロナ収束の兆しが見えたことによる需要の増加があったものの、当第1四半期連結累計期間においてはその反動減を補うまでには至らず、売上高は前年同期を下回りました。また、輸送費や原材料費が高騰する中、一層のコストの低減に努めてまいりましたが、急激な円安進行による円換算での仕入コストの上昇に伴い、利益は減少いたしました。

以上の結果、売上高は501,436千円（前年同期比5.7%減）、セグメント利益は32,940千円（前年同期比10.0%減）となりました。

② 不動産関連事業

不動産関連事業につきましては、日本賃貸住宅保証機構株式会社が家賃保証業務及び物件管理業務等を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、引き続き、顧客（不動産会社・賃貸人・賃借人）に寄り添った丁寧な対応に努めてまいりました。営業面においては、不動産賃貸市場において季節的要因として多くの契約が締結される時期である事も寄与し、家賃債務保証事業における保証料収入に係る新規獲得は前年同期を大きく上回る結果となりました。しかし、同事業における売上収益の計上においては、初回保証料・更新（年間）保証料については、保証期間にわたって期間按分計上としており、新規獲得に伴う代理店委託手数料は、支出確定時に全額を費用処理しております。そのため、営業強化・拡大によって新規獲得件数が増えた結果、損失が発生することとなりました。また、費用面においては、滞納者増加に伴い貸倒引当金繰入額が増加しております。

以上の結果、売上高は396,612千円（前年同期比2.8%減）、セグメント損失は8,462千円（前年同期はセグメント利益18,109千円）となりました。

③コンテンツ事業

コンテンツ事業につきましては、株式会社ポップティーンが電子書籍配信サイト「モビぶっく」の運営を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、電子書籍配信サイト「モビぶっく」において、引き続き広告宣伝費の抑制に努めながらも、費用対効果の高いプロモーション施策を継続することで、新規顧客の獲得に努めてまいりました。また、既存ユーザーに対しては、取扱い作品数の拡充やサイトのユーザビリティの向上を図ることで、顧客継続率を高めるための施策を行ってまいりました。

以上の結果、売上高は20,822千円（前年同期比10.2%増）、セグメント損失は1,873千円（前年同期はセグメント損失4,666千円）となりました。

④イベント事業

イベント事業につきましては、株式会社ブレイクが各地の大型商業施設の催事場にて著名なコンテンツの展示販売を中心に行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、前年同期において「PSYCHOVISION hide MUSEUM Since 2000」などの大型イベントを開催したものの、当第1四半期連結累計期間では同様の大型イベントの開催がなかったこと、またOEM物販の受注が減少したことに伴い、売上高は前年同期を下回りましたが、一方でコストの削減に努めた結果、セグメント損失は改善いたしました。

以上の結果、売上高は17,542千円（前年同期比54.1%減）、セグメント損失は5,060千円（前年同期はセグメント損失7,100千円）となりました。

⑤マスターライセンス事業

マスターライセンス事業につきましては、主に株式会社ポップティーンが出版事業を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、女子小中学生向け雑誌「Cuugal」に、Cuugal文化祭やモデルオーディションで選抜された6名の新たなモデルを起用し、大きな反響をいただきました。「Popteen」においては、前連結会計年度にWEBマガジンへとリニューアルを行い、引き続き制作コストの一層の削減を進めたことにより損益は大幅に改善されました。また、2024年1月1日付けで実施した株式会社ポップティーンとフォーサイドメディア株式会社の合併に伴い、連結子会社間の業務効率化によるコスト削減を進めた結果、セグメント利益の計上となりました。

以上の結果、売上高は47,214千円（前年同期比16.8%減）、セグメント利益は3,522千円（前年同期はセグメント損失80千円）となりました。

⑥AI関連事業

AI関連事業につきましては、2024年2月16日に子会社である株式会社AI Tech Solutionsを設立したことに伴い、当第1四半期連結会計期間より開始しており、当該子会社がAIを活用した事業効率化ツールの開発、AI開発支援向けGPUサーバーの販売代理を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、当事業の開始以降、AI関連ツールの開発に係る新規顧客の開拓を中心に営業活動に努め、顧客との間でツールの仕様等につき議論を進めておりますが、当四半期連結会計期間の末日現在においては開発受託契約の締結には至っておりません。一方で、GPUサーバーの販売代理による手数料収入を計上いたしました。

以上の結果、売上高は6,000千円、セグメント利益は5,594千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①総資産

当第1四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べて48,090千円増加し4,496,514千円となりました。主な要因といたしましては、現金及び預金の増加160,977千円、代位弁済代替金の増加76,910千円及び受取手形、売掛金及び契約資産の減少98,943千円及び貸倒引当金の増加74,267千円等によるものであります。

②負債

当第1四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末に比べて84,110千円増加し2,957,208千円となりました。主な要因といたしましては、前受収益の増加94,859千円、未払金の増加53,254千円及び長期借入金の減少32,630千円等によるものであります。

③純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比べて36,020千円減少し、1,539,306千円となりました。主な要因といたしましては、親会社株主に帰属する四半期純損失38,376千円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年12月期の連結業績予想につきましては、「2023年12月期決算短信」における通期の業績予測から変更しておりません。

なお、本資料に記載されている業績予測等の将来に関する記述は、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績等は今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,190,615	1,351,592
受取手形、売掛金及び契約資産	629,363	530,419
商品	243,745	186,117
短期貸付金	24,115	47,749
収納代行未収金	1,405,260	1,428,736
代位弁済立替金	477,538	554,449
その他	92,054	98,494
貸倒引当金	△408,388	△482,663
流動資産合計	3,654,304	3,714,895
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	116,408	114,805
土地	96,286	96,286
その他（純額）	15,118	14,760
有形固定資産合計	227,813	225,852
無形固定資産		
ソフトウェア	18,539	17,437
その他	18	18
無形固定資産合計	18,557	17,455
投資その他の資産		
投資有価証券	178,719	178,719
長期貸付金	283,688	275,195
敷金	61,342	61,298
長期未収入金	7,187	7,187
その他	24,224	23,316
貸倒引当金	△7,413	△7,407
投資その他の資産合計	547,747	538,310
固定資産合計	794,118	781,618
資産合計	4,448,423	4,496,514

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	133,958	105,649
未払金	1,346,008	1,399,263
未払法人税等	33,041	17,531
前受収益	513,744	608,604
1年内返済予定の長期借入金	103,658	108,248
債務保証損失引当金	82,900	85,380
賞与引当金	—	10,500
その他	248,819	244,034
流動負債合計	2,462,131	2,579,211
固定負債		
長期借入金	394,152	361,522
その他	16,813	16,474
固定負債合計	410,965	377,996
負債合計	2,873,097	2,957,208
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	464,518	464,518
利益剰余金	1,102,335	1,063,958
自己株式	△3,877	△4,322
株主資本合計	1,572,976	1,534,154
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	2,349	5,151
その他の包括利益累計額合計	2,349	5,151
純資産合計	1,575,326	1,539,306
負債純資産合計	4,448,423	4,496,514

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)
営業収益		
売上高	645,778	593,015
その他の営業収益	408,147	396,612
営業収益合計	1,053,925	989,627
営業原価		
売上原価	476,401	426,407
その他の原価	126,076	115,288
営業原価合計	602,478	541,695
売上総利益	451,447	447,931
販売費及び一般管理費	459,138	476,472
営業損失(△)	△7,690	△28,540
営業外収益		
受取利息	1,836	1,670
為替差益	35	387
債務消滅益	—	6,338
その他	97	58
営業外収益合計	1,969	8,454
営業外費用		
支払利息	4,078	1,904
貸倒引当金繰入額	5	35
支払補償費	—	2,182
その他	1,455	557
営業外費用合計	5,540	4,680
経常損失(△)	△11,261	△24,766
特別利益		
関係会社株式売却益	25,640	—
特別利益合計	25,640	—
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	14,378	△24,766
法人税、住民税及び事業税	8,552	13,610
法人税等合計	8,552	13,610
四半期純利益又は四半期純損失(△)	5,825	△38,376
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	5,825	△38,376

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	5,825	△38,376
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△292	2,801
その他の包括利益合計	△292	2,801
四半期包括利益	5,533	△35,575
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,533	△35,575

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント				
	プライズ	不動産関連	コンテンツ	イベント	マスター ライツ
売上高					
顧客との契約から生じる収益	531,923	386,780	18,895	38,222	56,736
その他の収益(注) 3	—	21,366	—	—	—
外部顧客への売上高	531,923	408,147	18,895	38,222	56,736
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	531,923	408,147	18,895	38,222	56,736
セグメント利益又はセグメント損失(△)	36,590	18,109	△4,666	△7,100	△80

(単位:千円)

	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高			
顧客との契約から生じる収益	1,032,559	—	1,032,559
その他の収益(注) 3	21,366	—	21,366
外部顧客への売上高	1,053,925	—	1,053,925
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	1,053,925	—	1,053,925
セグメント利益又はセグメント損失(△)	42,852	△50,543	△7,690

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△50,543千円は、各報告セグメントに配分していない
全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. その他の収益は、不動産賃貸収入であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 2024年1月1日 至 2024年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント					
	プライズ	不動産関連	コンテンツ	イベント	マスター ライツ	AI関連
売上高						
顧客との契約から生じる収益	501,436	379,832	20,822	17,542	47,214	6,000
その他の収益（注）3	—	16,780	—	—	—	—
外部顧客への売上高	501,436	396,612	20,822	17,542	47,214	6,000
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	501,436	396,612	20,822	17,542	47,214	6,000
セグメント利益又はセグメント損失（△）	32,940	△8,462	△1,873	△5,060	3,522	5,594

(単位：千円)

	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高			
顧客との契約から生じる収益	972,847	—	972,847
その他の収益（注）3	16,780	—	16,780
外部顧客への売上高	989,627	—	989,627
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	989,627	—	989,627
セグメント利益又はセグメント損失（△）	26,660	△55,200	△28,540

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失（△）の調整額△55,200千円は、各報告セグメントに配分していない
全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失（△）は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. その他の収益は、不動産賃貸収入であります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(「AI関連」事業の新設)

当社は、当第1四半期連結会計期間より新たにAI関連事業を開始したことに伴い、報告セグメントとして「AI関連」事業を追加しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報を当第1四半期連結累計期間の報告セグメントの区分方法により作成した情報については、前第1四半期連結累計期間にAI関連事業を行っていなかったことから、開示を行っておりません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。